

がいらいしゅ きょうい 外来種の脅威

人間の活動によって、それまで生息していなかった地域に持ちこまれたいきものを外来種といえます。外来種は海外から日本に持ちこまれたいきものだけでなく、在来種の場合でも国内のある地域からもともといなかった地域に持ちこまれた場合は外来種となります。外来種は、生態系への影響や人への危害、農林水産業への被害など、さまざまな問題を引き起こす原因となっています。

とくていがいらいせいぶつ 特定外来生物とは？

外来生物法により、外来種のうち特に生態系、人の生命・身体、農林水産業に被害を及ぼすおそれのあるものは「特定外来生物」に定められ、アライグマやウシガエルなどが指定されています。

「特定外来生物」に指定されると、飼育や栽培、生きたまま運ぶこと、別の場所に放すこと、売り買ひしたり、人に配ったりすることなどが禁止されます。

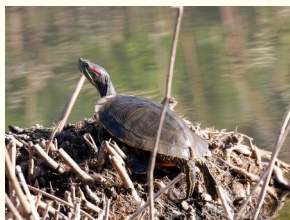
がいらいしゅ ひがい よぼう さんげんそく 外来種被害予防三原則

- 「**入れない**」
外来種を入れないことが重要です
- 「**捨てない**」
飼育している外来種は最後まで責任をもって飼ひましょう
- 「**拡げない**」
他の地域に拡げない(増やさない)ことが重要です

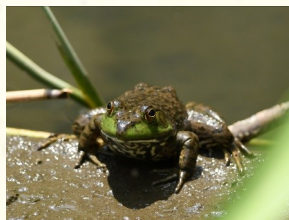
■ 川口市内で見られる外来種の一例



アライグマ
(特定外来生物)



ミシシッピアカミミガメ
(条件付特定外来生物)



ウシガエル
(特定外来生物)



カダヤシ
(特定外来生物)



ブルーギル
(特定外来生物)



タケオオツクツク



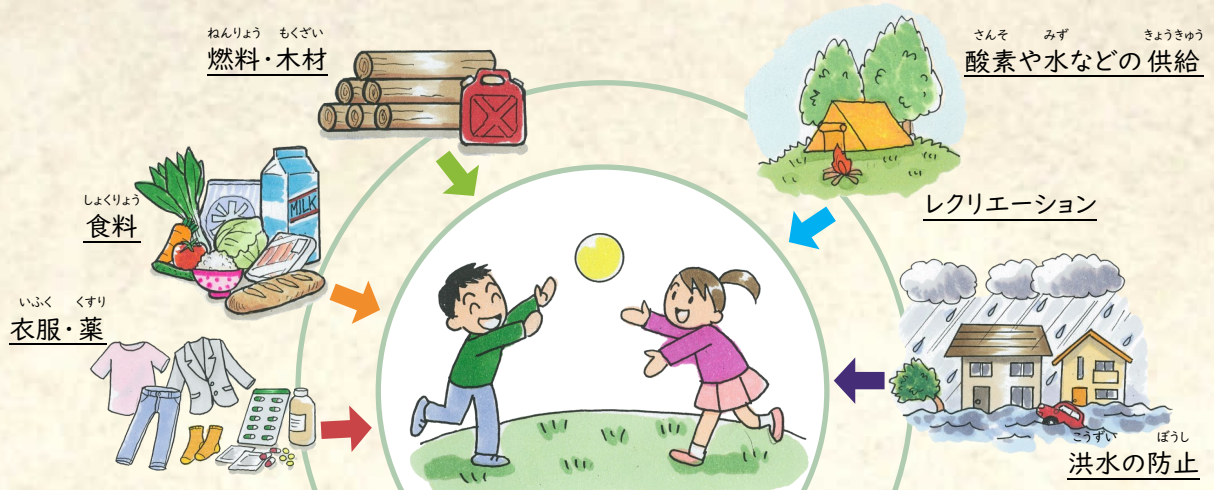
アカボシゴマダラ
(特定外来生物)



アメリカザリガニ
(条件付特定外来生物)

※条件付特定外来生物…特定外来生物のうち、通常の特定外来生物の規制の一部を、当分の間、適用除外とする生物の通称です。
2024年3月現在、アカミミガメとアメリカザリガニが指定されており、捕獲や飼育などが可能となっています。

せいぶつ たようせい 生物多様性ってなんだろう？



地球上には3,000万種のいきものがいるといわれており、色や形、大きさなどが違うだけでなく、同じ種のいきものであってもさまざまな個性をもっています。いきものがもつ個性や、すべてのいきものがお互いに支えあいながら生きていることを「生物多様性」といいます。わたしたちの暮らしも、さまざまな自然のめぐみで成り立っているのです。

せいぶつ たようせい きき うしな おも げんいん ■生物多様性の危機 (失われている主な原因)

人間の活動によって、豊かであった生物多様性は失われつつあります。

原因1: 開発と乱獲 (げんいん かいはつ らんかく)

原因2: 里山などの管理不足 (げんいん さとやま かんり びそく)

原因3: 外来種や化学物質 (げんいん がいらいしゅ かかく ぶっしつ)

原因4: 地球温暖化 (げんいん ちきゅう おんだんか)

■わたしたちができること

わたしたち一人ひとりが自然やいきものと触れ合い、生物多様性との関わりを知ることが大事です。さらに食品ロスを減らしたり、環境にやさしい商品を購入したりと、身近なところから行動することが生物多様性を守るにつながります。

緑でつなげよう ～エコロジカル・ネットワーク～

かわぐち しない こうえん そうきばやし たはた かせん せいいく せいそく しぜん ゆた
 川口市内には、公園や雑木林、田畑や河川などのいきものが生育・生息しやすい自然豊
 かな場所が点在しています。しかし、点在している状況は、いきものの移動が制限されてし
 まうため、いきものにとって暮らしやすい環境とはいえません。市内に点在している生息地
 や繁殖地となっている場所を、公園や街路樹などでつなぐことで、繁殖場所やエサを確保
 しやすくなるなど、いきものにとって暮らしやすい環境をつくることができます。このような、
 いきものの移動が可能となるようなつながりを「エコロジカル・ネットワーク」といいます。
 わたしたちも庭やベランダに草花を植えたり、街路樹や生け垣、河川を大切にするなど、
 一人ひとりが豊かなエコロジカル・ネットワークの形成を心がけることが重要です。

